

課題名 飼料用粳米を中心とした国産飼料資源の利活用試験（平成27～30年度）

【課題の概要】

飼料用粳米を中心に、生豆腐粕等の地域飼料資源について、栄養特性を考慮しつつ、安価な飼料化およびその保存技術の確立を図るとともに、家畜への給与方法を確立する。

利活用可能な飼料資源の安全で安価な飼料化処理・保存技術として、処理コストが低く、特別な設備の不要な乳酸発酵（サイレージ）方式の確立を行うとともに、牛や豚への給与試験を行い、嗜好性、発育および肉質等への影響を調査する。

【評価結果】（評価委員数 4名）

○各項目の評価（各評価委員の平均点）

研究の必要性・重要性	期待される成果・貢献	既往研究等との関連性	創造性・独創性	研究目標の妥当性	研究方法の妥当性	合計点
5.0	4.8	4.8	5.0	4.8	4.8	29.2

○総合評価 A：採択

（A：採択 B：計画を見直し採択 C：不採択）

【委員の意見助言と対応策】

評価項目	意見・助言	対応策
研究の必要性・重要性	<ul style="list-style-type: none"> 国の施策とも合致しており、重要性は高い。 未利用資源活用による飼料自給率向上の観点から、飼料用米と食品製造副産物の利用が推奨されており、本課題取組の要望は高い。 	—
期待される成果・貢献	<ul style="list-style-type: none"> 飼料米やエコフィードは飼料自給率の向上に貢献できるものである。 飼料用米と地域未利用資源の効率的な活用による畜産生産物のコスト低減につながる。 S G Sの保存性及び保管に関しては飼料米より利用価値が高いが、食品残さの配送や混合コストなど、未知の部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生豆腐粕などの飼料資源は、搬送や保存コストが発生するため、混合方法なども検討したい。
既往研究等との関連性	<ul style="list-style-type: none"> 各試験場等でデータは集積されているので、日常的な情報収集に努めていただきたい。 既往の成果を基に研究計画が構築されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他機関で実施される研究情報の収集に努めて研究を進めます
創造性・独創性	<ul style="list-style-type: none"> 生豆腐粕の利用は県独自の取り組みユニークである。 未利用資源の組合せによる効率的な利活用を目指している。 飼料用粳米のサイレージ化と豆腐粕の活用 特色ある豚肉の生産に期待が持てる。 	—
研究目標の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 普及技術としての目標は明確である。 飼料調製と畜種別給与手法の開発を目標としており、課題は多いが達成は可能と考えられる。 農家毎に生豆腐粕を混合することは現実的でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 粳米と生豆腐粕の混合は、調製総量によるが、牛では数戸分を同時に、豚では生豆腐粕サイレージを別途調製し、給与時に混合する方法で作業効率の向上を検討します。
研究方法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 既往の成果に基づく研究だが、状況に応じて方法の最適化を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の粳米調製法に関する実証データ等を収集し、方法の修正改善に

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法は妥当と考えられる。 ・農家からの意見収集を含め，多方面と連携して研究を進めてもらいたい。 ・豚と牛を組み合わせて未利用資源のより効率的な利用を目標としている点は評価できる ・豆腐粕以外の食品残さの活用も検討して欲しい。 ・生豆腐粕の保存性，配送コスト等を考慮すると，飼料化専門の組織の活用などがより現実的。 	<p>つなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家が利用しやすい技術にするため，普及組織等と技術体系化チームを組んで研究を進めます。 ・生豆腐粕等のエコフィードについては調製側が利用しやすい形態で供給できる方法も検討したい。
------	---	---